

緑のエッセー

秋田県仙北市は、総面積の8割強が森林という緑ゆたかな土地柄です。

この土地で生まれ育った私は、子どもころから林業を身近に感じてきました。私の祖父をはじめ、近所には林業従事者がたくさんいました。家では薪ストーブを使っていて、父は大工ですが、家の山の広葉樹や薪ストーブ用の薪をチェーンソーで伐っていました。そんな光景を当たり前のように目にしていたので、私も自然な流れで林

木を倒すときは必ず退避場所を確保する教育を受けていたので、幸いにも回避できましたが、危険性に対する意識は次第に薄れていくものなので、定期的に安全教育を受けることが重要だと思います。

技術高度化研修では、秋田県全域から林業マンが集まって技術や意見の交換ができ、とても有意義でした。日ごろ異なる現場で働く林業マン同士の横のつながりは、この研修に参加するこ



業に従事するようになったと思います。平成18年に仙北東森林組合に入り、現場経験を積むため、上司の勧めもあつて「緑の雇用」の基本研修を受けました。

研修で最初に実感したことは、林業における安全作業の大切さです。秋田は豪雪地帯のため雪害木が多く、その処理作業をすることがありますが、ある時雪の重みでしなつた木が折れ、思わぬ方向へ倒れてきたのです。研修で

とがなければ得られなかったものです。また、施業効率化研修は民間の業者の現場で行い、その業者が考案し機械製作会社に依頼して作った、掘削と集材が1台でできる「グラップル付きバックホー」という重機に乗る機会を得、その性能を実感しました。他の業者の現場に行くことにより、自分の現場だけでは知ることができない技術に触れることができ、たいへん勉強になりました。

最近、家の近くにある田沢湖にかつ

て生息し、絶滅したとされていたクニマスが富士山の近くの西湖で発見され、田沢湖への里帰りが計画されています。とてもうれしく思いますが、今の田沢湖の水質が元に戻るには120年かかると言われ、とてもすぐには里帰りできません。私たちが森林を整備することで、少しでも水をきれいにすることに貢献できればと思っています。

今、林業は全国的には後継者不足ですが、水源かん養、二酸化炭素の排出

平成18年、仙北東森林組合採用。一緑の雇用担い手対策事業で現場作業に従事しながら林業の知識や技術を学ぶ。平成18年度基本研修、平成20年度技術高度化研修、平成21年度施業効率化研修修了。30歳。

削減、生物多様性保全など、社会的意義もやりがいも大きい仕事です。ぜひ「緑の雇用」のような若手育成プログラムが今後も継続され、林業に就く若者が増えるといいと思っています。

今後は、県外や、機会があればヨーロッパあたりの林業先進国の現場も見てみたいですね。自分の技術向上とともに、当組合にも20代30代の若者が続々と入ってきていますので、その育成にも努めていきたいと思っています。